

Photo Album

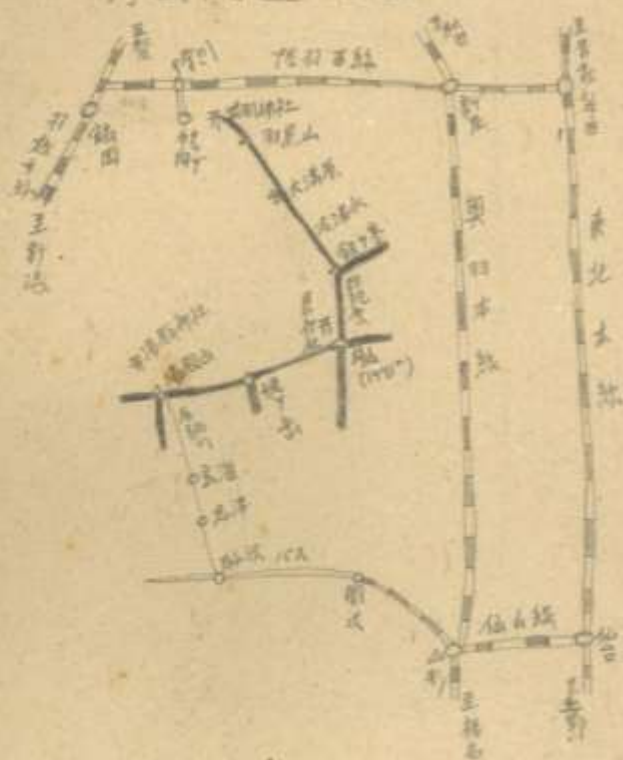
東北ノ山々

昭和15年9月月山登山

同行 鈴木

松本皇靈寺ヲ利シ鈴木ト2人芭蕉ノ尺牘ヲタヌキ出羽月山ニ遊フ

月山附近田略図



大満ヶ原 = 下

9月21日朝仙台ヲ登リ小午田
新庄ヲ至リ雲前川着 バスヲ
手同ニ至ル 徒歩暫クニシテ
出羽神社ニ達ス 実ニ
立派ナ神社デアル
社ノスグ裏カラ羽黒山ニ登ル
所ニ芭蕉ノ句ヲ印シテ石碣
ガ認メラル 此カラハタ
ク尾根筋ヲ秋ノ日ヲ養復
ニ登ケタトテ石ヲニ登ル
夕刻大満原ニ達ス
無人ノ山小屋ニ一夜ノ宿ヲ
カリル



大満原ニテ



明治三十九年九月二十二日 不運ニモ朝刊シト雨ガ降ツテキルテハナク
 恩比カ行大満小屋ヲ登入 冷清水 合清水ヲ至テ 剣ヶ峯ノ
 尾根筋ニ出タ時ニハ 暴風雨ト化シテ 走ルガ如ク 雲雨ヲツイテ
 降降原ヲ月山ヘ向ケ 強行スル 全ク吹キトバサレシラナ風タ
 晝ヌ漸クニシテ月山頂ニ達ス 無人ノ月山神社ノ社ヲコナアテ
 ニ夜ノ宿ヲ借りル事ニスル 早速火ヲ燃シズデヌレノ衣類ヲ乾シ
 漸ク安トシタ氣持ニナル ソノ夜ハ一晩中 交雨ハ社ノ廊ヲ
 吹き全ク陰鬱ナ氣持ニ打タレシ

月山神社ノ社ニテ



9月23日 昨夜未ノ雨ハ未ダ降りヤマス 出発ヲ迷フテ居ノリ9時頃
 至リ Gas が切れ 初メタノテ 思ヒヒ切ツテ 出発スルコトニスル
 尾根筋ヲ下リ 姥ヶ岳ニ至リタ頃 漸ク天候ハ好轉シ 日ノ光ガサシ
 初メタ 湯殿山ヨリ 惣型ヲ下リ 湯殿神社ニ至ル 所ニ火山特有ノ温泉
 ガ湧キ出テ 硫黄臭ニ数ノ少シラス 気味ガ悪イ 社寺ノ 神主ガ一人居ツタ
 テ 神主ヲタノム 鈴木ガ マチノサテ 殿ヲサテ 寺ニ入リ 全クオオシテ 参リ
 雨ハ 湯殿山ニ引返シ 石跳川ヲ下ル 全クノ 廢路ニテ 沢ヲ右ニ渡リ
 左ニ渡リテ 非常ニ 苦勞ニテ 漸ク 玄海ニ達ス 時ニ午後2.00

玄海ニテ



志津川 縣道ヲスタート志津ヲ登テ月山ニ向フ

志津附近ヨリ振返リ見タ月山ハトデモ美ニイ 東北ノ
秋山 ホトニヤハカイ 惹キル 女性的ナ海ヲ示シタル

志津附近ヨリ月山湯殿山ヲ望ム



單調ノ縣道ヲ足ノ痛ナルホト歩カレ 漸ク月山ニ至リ 最終
ノバスヲツカマヘテ間沃ヘ山形ヲ登テ 仙台ニ到リ 居イタノハ
夜モ大分更ケタ頃デアッタ

昭和15年10月吾妻山行

同行 鈴木

吾妻山塊=紅葉トシテ静寂ヲ求メ鈴木ト2人中秋ノ杜郡ヲ獲ニスル
会津ノ奥地裏磐梯ノ秋メラル火山湖地帯ニシテ真紅=紅葉セル
デアラウ吾妻ノ山ヲ憧レ我々ノ心ハタビヒタステ=岳へ

10月13日仙台ヨリ米沢ヘ向フ車中ニテ



10月13日早朝仙台ヲ発シ福島ニテ
奥羽本線ニ乗換ヘ米沢ニ至ル
米沢ヨリバスニテ高湯温泉ヘ
山ノ温泉宿ニ一夜ノ宿ヲ取ル
トテモ素晴シイ天然泉タ Alkali 系
硫黄ナゲアラ湯カスキ通クテトモ美
シイ

明7ルバ10月14日天候ハ余リ思ハフナイガ出発スル事ニスル 温泉ノ
スグ裏ノ森林帯ノ尾根ニ取付テ本日ハ登山靴ヲヤマ昨日高湯デ
おメテワジバキクトモヤハラカクテ気持カ良い10時半頃西吾妻ニ達ス
西吾妻附近ノ草原ヨリ西大敷ヲ望ム



西大嶺山ヨリ華原ヲ望ミ進ミ西大嶺ニ達ス時ニ川見
 西大嶺山ノ北麓林三湖磐梯山ヲ望ム

西大嶺頂ヨリ眺望残念カク天候不良
 ニテGoカカリ屋リ

小野川湖磐梯山ヲ望ム

槽原湖ヲ望ム



秋元湖

宇連太郎山



西大嶽ニテ鈴木君



西大嶽ヨリ直チニ森林帯ノ屋根ヲ小野川郡落ヘ
向ケテ下ル。途中廿日平ノブナ林ノ紅葉ガ実ニ
素晴ナク不斧ノ大森林ガ人跡稀ナコノ奥地
ニテ誰シ一人見ル人モナク紅ニ紅葉シテ其ノ妙

廿日平ノ紅葉



廿日 平ニテ

ナト素晴シイ紅葉ヲハナカ雨上リノ本々ハニモ(ナト)

生ガクシ奥ニソノ美シサヲ増シテナル



小野川ト小野川部落



午後3.00時頃ニヨリナト小野川ノ部落
ニ出ル 小学校ノ分教室ニ一夜ノ宿ヲ
乞フ先生ハ一人トシテ非常ニ我々ヲ
歓迎シテ呉レ 学童ノ取リテ来テイル
葺ノ御馳走ニナレ 一夜色々コノ
山間僻地ニ於テ教育ノ話ヲ聞ク
我々僅ク一年ノ間ノ若イ先生ガクター人
デ一年所年マデ全部及持チ若キ青春
ヲタ教育ノタメコノ奥地ニ過ギテ17
年ヲ割キ毎ノ事ヲ見深ク考ヘテイルガアッ

10月15日 早朝 小野川部落ヲ発チ 樽原湖ヘ

湖畔ノ林道ヲ西ヘク 午前11時 穴如 曾原開墾地ノ草原ニ出ル

林道ヨリ 小野川湖ヲ望ム

曾原開墾地ハ 薄ク 草原ヲソノケニ 林間軌道ガ
真直ニ走リ出ル 杉ノサケ 炭ヲ運ブザモ 秋ラニイ



大草原ヲ 軌道ニ沿テ 更ニ西ヘク 薄ク 原ヲ行ク 我ノ心ハ イタシトナリ
心ヲノシイ 秋ヲク スガクシイ 日ノ光ハ 我等ノ 脊後ヲ照ス 暫クニシテ
曾原湖畔ニ出ル 秋ノ 湖ハ モノスゴイ マチニ 澄ミ 渡リ 薄ク 穂ノ 雪ヲ 映シ
テ 心ノ 静寂ヲ ソノモダコソ 我々ノ 求メ 来タ 静ケサ カタニ 人ハ
暫ク 足ヲ止メタ 黙リテ コノ 静ケサニ シタリ ヒカツタ

静カナル 湖 曾原湖ヲ望ム



午後2時狐鷹森=出ル檜原/湖が眼前=浮カ檜原湖
 北磐梯三湖/収/最大/湖テ南北1里/表細イ湖デアル
 明治初年/磐梯山/大爆発=際シコ/附近ノ村落ヲ犠牲
 ニシ出来タ火山湖デアル 狐鷹森水電取入口=ヲ茶ナソ
 フカシ約1時間 遊カ

狐鷹森ヨリ大磐梯出テ望ム
 湖ノ背後ニ聳ヘ立ツ磐梯山火山特有
 /男性的ナ力強イ姿ヲ示シ静カナ湖面ノ
 女性的ナ姿ト良イContrastヲオビイデアル



狐鷹森=ヲ秋ノ日ヲビシト湖畔ニ一時ヲ過ス



臥簷森ヨリ檜原湖ニ沿ヒ磐梯公園ホテルへ火ニ五色沼ヲ至テ

磐梯ホテルヨリ著、檜原湖



川上温泉へ夕刻、五色沼ハ初メコイ新
ヶサ内ニ五色ニ輝キテセル血ヲ思ハシメ
貴河ヲ思ハス黄色、緑、黒、マルテ染料ヲ扱
セル如キ鮮明ナル色合ヲ示ステセル

川上温泉ニ外リツツ夕時ハモウ日ハトナリ
暮レ果テ、居テ川上温泉ハ此ノ季気
ガ別、余リ感テ、良イ宿テハナカッタガ
トモカク此処ニ一夜ヲスゴス

10月16日早朝 川上温泉ヲ登リ磐梯山へ温泉ヨリ暫ク森林帯ヲ
進ムト火口岩ニヨリ形成サレタカレ、地帯ニ出ル、歌シ日ノ照リツル
岩石ノ上ニ歩行ハ非常ニ苦シイ噴火湯ヨリ危峻ナ火口壁ニ
火口壁ヨリ噴火湯檜原湖ヲ
望ム赤褐タ火山特有ノ景観ノ
ハルカ、低クニ湖ノ水ニシテ檜原湖
が見ヘル



取付ク急壁ヲアヘギク登攀
樹ノ岳ト磐梯ノ鞍部ニ達ス
赤褐タ火口壁ノ上ヲ磐梯頂キ
へ向ケヒツキ登ル、午前10時
頂磐梯頂上ニ達ス、其ノ頂運悲
ク非常ニ浪イガオガカリ眺望
ハ全然駄目待望ノ猶苗代湖
モ全クツツテ現ハズ残念デア
リ、ツツガ先ヲ急イデ直ニ往路ヲ
引返シ川上温泉へ

火口壁ヨリ樹ノ岳ヲ望ム



秋元湖畔/出来事

本日八川上温泉より奥に秋元湖北岸/道=沿ひ市沢=至り宿泊スル候定ニテ
 2) 秋元湖北岸/道ハ陸地測量部5万全1/10地圖ニハ明カニ記シテ秋元村人ノ跡ヲ見最モホトト人カ
 画リテ居スノ事ナリツタニ不安ヲ覺テ先リ往キ食ヲスマヤ通ニ高クカキ川上温泉ヲ往ニスル候節
 道ノ不便取入口ヨリイコノ山道ニ取リカハル山ハ湖岸ヲテセリ僅カニ切開キテ道ハ時間ニ違フモノナ
 道ニ長イテ山ノ出シテ歩ク重荷ガ肩ニ食ヒヨリ手前中ノ梨林山ノ道ニ世テ足カ見ク様ニ所
 道ニ中津川出合ヲ越ス頃ハ既ニ日ハ暮レ初メテリテ中津川出合ヲ越ニテおハ地圖ニヨ
 レバ道ハ東ニ湖岸ニ沿リテ進ムハズニナリテオハ然ルニトワサガシテ道ガ見ダヌ僅カニ小丘ガ
 認メラルガ暫ク進ムトノズマリニナル日ハ刻々ト暮レ初メテ本夕行程ハギバモオハ屋
 スアセバアセハホト道ハ見ダヌ湖岸ノ夕照ニ薄氣味更ニ一陣ノ風ハ冷ク吹イ
 テ来ル新ク道ヲシテ見出シ安ビテ進ム然レドモ更ニ道ハ湖岸カラ遠レ地ニ
 山ノ奥ニ進ム様デアル所着ニヨレバ道ニ北ニ進ニテオハ地圖ニ依リテ道テハナイト勿
 略ニナル前ニ仍ホカニシカシテ道ヲ見出シテハナス仕オカナイコノ道ヨリ外ニ道ガナイ
 エイマヨリソノ道ニ從ヒ進ム道ハトノ北ニ進ムテハナイカ暫クイタク道バツノ林ノ
 中ニ更ニナ振立小屋ガ見ダル所薄氣味更ニカタク道ヲ尋ネヨリト又ツノツノ更ニナガ
 一人居リイソカスツア居ルカ全然通セヌカトラヤコノ道ヲ知ルマデモイタク歩落カ
 アル様ナリイカヤニニテ先ニ進ム日ハトツアリト暮レシマツタ全クハ細イトツタ手ナ
 道ハ合點方向ナカニ北ニ進ムトモカマカリナハバ野原ノ境悟テ進ム湖岸ヨリ一里ニ進
 道ニモ進ノ方向ガ東南方ニ接シテオハテオハ東南ニ進ムハ利ハ出ルカナバハ南ニ東南方
 下リテ進ム限ハ村ガ飯ヲ食フ時間オシ走リナガリ飯ヲ食フトカレコノ道ヲ進ム方ガ東南
 間ク道ハ果樹園ノ中ニ遠ク見ヘ市沢ニ至ルオハテオハ地圖ニサツナ野原ガアル様ニ
 接シテ野原ニ進ム道ヲカドツテ氣持ガ更ニ強ハルカセンナガカ今迄ノ道ハ見ダル
 七ノ里ノ道ヲアセメ市沢ニ至ルハ既ニ道ニ進ムトモ先ニ道ニ進ムカレナバ野原ヲツノツノ
 手ニテトツナカス薄氣味更ニ甚デイタクツナカスツナカスナガカ今迄ノ道ハ見ダル
 十ノ里ノ道ニ至ルハ既ニ道ニ進ムトモ先ニ道ニ進ムカレナバ野原ヲツノツノ
 手ニテトツナカス薄氣味更ニ甚デイタクツナカスツナカスナガカ今迄ノ道ハ見ダル

一夜ノ宿ヲモツ秋元湖畔ノ一軒家

10月17日朝



食事ヲシタト此ノ道ヲ知ルマデモイタク歩落カ
 利ハ出ルカナバハ南ニ東南方
 間ク道ハ果樹園ノ中ニ遠ク見ヘ市沢ニ至ルオハテオハ地圖ニサツナ野原ガアル様ニ
 接シテ野原ニ進ム道ヲカドツテ氣持ガ更ニ強ハルカセンナガカ今迄ノ道ハ見ダル
 七ノ里ノ道ヲアセメ市沢ニ至ルハ既ニ道ニ進ムトモ先ニ道ニ進ムカレナバ野原ヲツノツノ
 手ニテトツナカス薄氣味更ニ甚デイタクツナカスツナカスナガカ今迄ノ道ハ見ダル
 十ノ里ノ道ニ至ルハ既ニ道ニ進ムトモ先ニ道ニ進ムカレナバ野原ヲツノツノ
 手ニテトツナカス薄氣味更ニ甚デイタクツナカスツナカスナガカ今迄ノ道ハ見ダル

10月17日 一夜1宿ヲシテ吳ノ人々ニ礼ノ爲ニ寫眞ヲ撮ツテヤリ、秋元
湖畔ニ出テ市ノ次ニ進ム

秋元湖畔ニテトモ底ヲ開ケタ所ヲ秋風ガ吹テヤリ
寒イ



市ノ次ニテハ 食糧大分缺乏シテ味ノヤイニ入レル
所アリ開ケタ良イ部落ヲ小倉トシテ又ニ進ニ蒲谷地
ノ部落ニ至ル

蒲谷地部落附近ニテ村ノ子供ト鈴木君



浦谷地附近ヨリ小倉川ハ何くセマ行谷道=入ル
 コノ道ノ直ハ地面ト相当異ナリ割リ=クイト甚タイ炭焼=道ヲ聞
 キチカラシム スト外老岸ノ合地=池ヒ 樹ノ林ノ内ヲ紅葉ヲフミク登ル
 午後12時半迄ノ徒渉地=遠ス 沃=テ盡食ヲシユツクリ休ム

小倉川徒渉地=テ
 余ノ紅葉ガ美シカラシム



徒渉地=直ニ尾根=取付キ初峯
 乗越地=午後200乗越=ス
 コノ附近ノ景観ハ秋色濃ク美シ

相峯附近ノ景観

箕輪鬼面山ヲ望ム

磐梯山ヲ振り返リ見ル 昨日登
 ツタ岩梯ガ面ノ彼方ニ見ヘテハナカ



安達太郎山ヲ望ム

コノ附近ノ道ハ木トニ被リ山道タトシテ趣キナシ



相ノ峯ヨリ草ノ香高イ山道ヲ幕ノ湯ヘ下ル幕ノ湯ハ山ノ麓
 泉宿テ全テ自炊式テ農閑期ヲ利シ沃山ノ村人が湯治ニ来テ
 其タユノ附近ノ村人ハエガ一年中デー々樂シイ行事ヲソウダ
 トモカクおハコノ温泉テ5日間ノ山旅ノ疲レヲ充分癒シタ
 翌18日早朝6時宿ヲ発シ温泉ノ裏ヨリ尾山峠ヲ登リツ
 タ所ヨリ烏子平ノ草原ガ開ケル西方ニ東吾事山ヲ望ム

烏子平ヲ行ク鈴木君



烏子平ヨリ東吾事山ヲ望ム



烏子平ヲ下リ尾根ヲ一ツ乗越シ吾事富士ヲ右方ニ望ミ尾山峠
 所跡ニ至ス此処ヨリ赤穂ノ夕火山特有ノ砂山ヲ一切經山ヘ向テ
 登リツメル乗越テ奥ヨリ金沢沼ヲ望ム

一切經中腹ヨリ赤穂ニ金沢沼ヲ望ム



其越又ヨリテヒタスニ尾根ヲ登リツメ午前日時一切経頂上
ニ達ス五色沼ノナカメハ奥ニ素晴ニイ山上ノ静カナル湖ハ
何トモ云フヌ物スゴミガアル

一切経頂上ヨリ五色沼ヲ望ム 後方ニ見ヘルハ家形山



五色沼ニテ小生



12時一切経ニ別レテ告ゲ下山ノ
途ニツク一切北東部ハ
スカトヲ拓ゲテ様ナル大ナ
灌木帯ニヨリ山麓ヲ形成
シタルコノ灌木帯ヲ東北
ニ向ケ山麓ハク青木小屋
ヲ至テ五色温泉ニ達ス
五色温泉ヨリ直チニバス通

ヲ板谷ヘ夕刻沖ノ板谷駅ニ達ス一週間近ク人里ヲ齟
シテ此我々ハ何ハサイオイトモ待望ノ菓子屋ヘアノ時両手ニ持ツ
テ金ツ生菓子ノ味ハ忘レラレナイ。カクテ約一週間ノ吾妻山
塊ノ山旅モ終リテ昔ゲ汽車ハ我々ヲ乗セ仙台ヘ

山ノ神附近ヨリシールヲ張リスキーヲ穿テ



高湯滞在中一日晴し間ヲ利用シコーホルトヒュツテニ遊
ブ 歸リ 林間スキーハ素晴ニカッタ

コーホルトヒュツテヘ向ケ
スキーヲ進メル小生



コーホルトヒュツテ附近
ニテ食事ヲスル我々



昭和16年1月五色スキー行

同行 田村 土肥 福元

廣鉄駅到着 乗車券320

1月18日午前8:42 / 列車 千代田 発 福島 行 至

奥羽本線 飯坂 駅下車

午後1:00 飯坂 駅 行 後 五色温泉

二回 午後2:30 温泉着

一風呂アヒマ 早速 スキー 練習

宿川旅館 金3.00円也 / 宿泊料ヲ

納入 宿泊致スコトスル

スキー 一汗カケ 後 風呂 ハ 又 格別



飯坂 駅 行 後 五色温泉へ
同リ スキー 行 海 へ

五色橋 行 後 五色温泉 行
ナリ 行 吹 雪 風 カ 甚 ン ツ ナイ
中央 / 土肥 君 ナ 大 ス マシ ャ マス



鞍部=出所=7
土肥君脊可高ク見せしニ
伊之骨ヲ折リキマス



明治三十八年九月九日午前9.30旅館出発青木
屋・向テ奥ハ早朝宿ヲ後ニテ出来バ「北極頂」ヲ
トモ男ヲテカ田村ノ朝寝グセ(突ハ切後依ハ早朝
出発ノ第一ニ係着テツ)土肥ノカシグセ(板氏突ハ
出発前ニ朝風呂ヲ入リノカシグセヲ)ノメニスリカ
出各カ道ニル 旅館裏奥ヨリ尾根ニ取付キ
午前10.00鞍部ニ達ス鞍部ヨリハ夏道ニ沿ヒ
尾根筋ヲマ行進ス

吾事ノ山々

ガヲモナク田村君景色
ナルモワザシクシマス

夏道ニ沿ヒテ尾根ヲマク
Top 田村少々ニバツテ来マク



雪稜ヲ越ヘル

逆光ニ映ヘトモ雪カ!

美シク見ヘル空カモウ少

シ落キトカク良イ寫眞ニナ

ルヲカ! (1949年AM11:30 生元 field 56.6)



夏道ニ沿ヒ尾根ヲ巻キ終ヘ

沢ニ入ル前ノ附近ノ斜面トデモ

素晴シイデシールヲ着ケタマヘ

一滑リ

シールヲ付テタマヘ 3人ソロソロサア一滑
リトハナシ悲シモ土肥轉倒ノ落信
セトシマス(土肥君曰クシールヲ付ケ
マ、デハトウモ滑リニタイハテ!!)

31番兵 Camera = Angleヲ付ケ做
斜ヲ出サシメシガアワテ、反対ニ
Angleヲツケ却ツテ水平トナツテレイ
平面ニテ轉倒トハ結果ニテリ土肥君
ニハ某ダ御氣毒?

小賣用村君轉倒残念
福元社ウエカコラカ海ツ
マスガ次ノ瞬間ハ?
勿論スリヤント行ツタ事ハ
残念過リ



滑り(轉ビ?)凍レテ一休ト云フ所 午前11.00

雪1土ニ座ラシテ置ケバ 筋様相当ナレ/一旦立ち上リ 滑走ト
レバ? 一同 長分へバツテ来マシタ 青木小屋へ行ク
ノヲヤメ 此ノ辺ヲ引返へサト云ツタハ 誰シ?



太陽ニ笠ヲカブリ少ニ天候ガクヌレカケ
マシタ 先ヲ忙ガキハナラヌ 補天石ノ Binding
ガドウモ 調子ガ悪イ大忙キデ修理工中



光ト影ノ交錯

雪光ニ映ヘク雪面ヲ進む3人ノ細長イ

影法師ガ純白ノスカーンヲ張リメクラシキ様ナ

雪ノ面ニ怪シク動ク足モカラコトホサナ雪塊

ガ心地良ク処女雪ノ上ニ落ナテ行クハハハ

前方ニ見ヘルハ家形山ヲ純白ノ清キ雪面

ニ映サシム攀ル男子等ノ影ヲ濃ク引キツルヲ



午後1.00やうや7青木小屋ニ達ス

ミール外ニテ小屋ノ内へ早7テモスノ内ノアツカイコアカ
敵ニタイパー



小屋ノ前ニテ小生

田村君ニ撮影シテス



青木小屋 / 炊テ ストーブ = 火ヲ入レ晝食ト云フ所



田村君 / 大キナパンヲ見テ
ヤリテ下サイ



青木小屋ヲ候ニサアイロ
スキーヲ穿テ行降降ト云フ所



午後 2.30 青木小屋 出発

登リニ苦勞シ斜面ヲシヤニ (スリ)
飛バテ五色湯泉へ 4.00 五色
着直ニ板宿へ 5.30 板宿
登リ列車ヲ他台へ

昭和16年2月八甲田山スキー行

同行鈴木

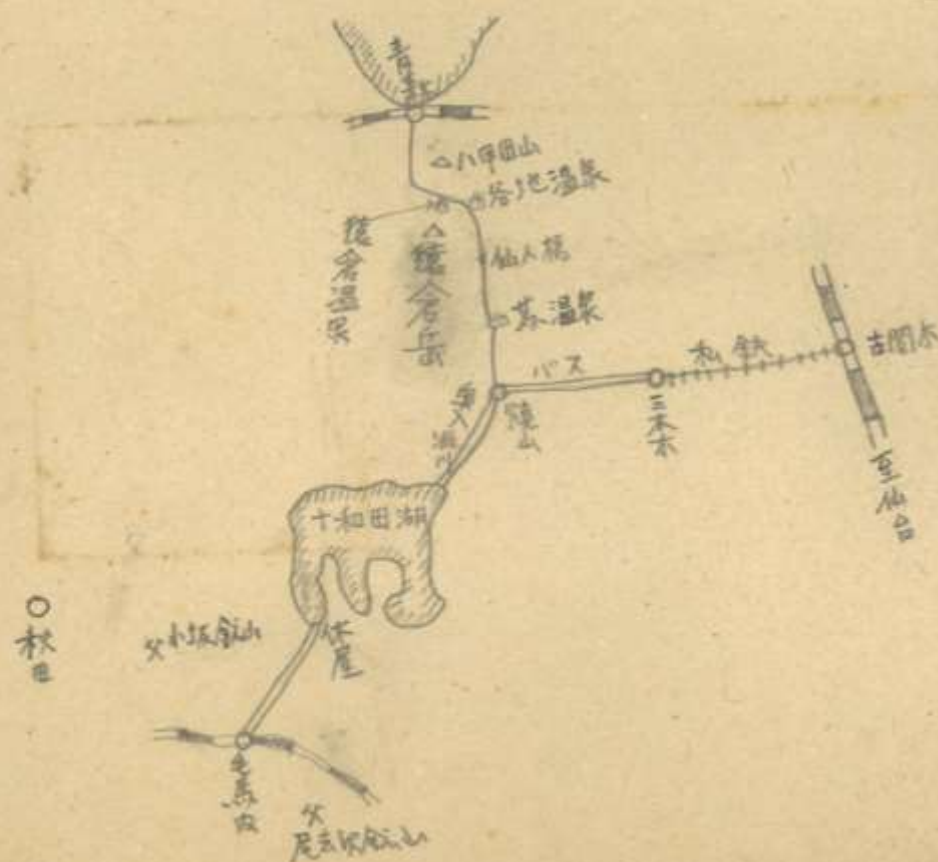
本州北辺 / 高山八甲田山 / 白雪 = アコガレ 鈴木ト共ニ嚴冬
/ 仙台ヲ後ニスル

2月9日午前5:30東北本線古閑木駅下車 7:20 / 支鉄 =
テニ本木へ 8:00着 北辺 / 支鉄ハ Stodgeヲ入レ地方色
濃厚デアル ニ本木ヨリ 1時間半 Bus = エソレ 11:00 焼山着
焼山ヨリ直チニスキーヲ付ケ萬川ニ泊リ 萬温泉ヘ向フ
午後1:30 萬温泉ニ達ス 大町村月ニテ有るナ温泉タ
ガ嚴冬2月 / 今ヨハ誰レ一人留ル人モ無ク全ク林ニイ

焼山ヨリ萬温泉ニ至ル間ニテ



其温泉ヲ出ル頃ヨリ天候悪化シ初ノ午後2:30仙以橋
 ニ達シ時ハ既ニ猛吹雪トナリ一寸先モ見ヘヌ加フルニ仙人橋
 ヲ越シ時ヨリ地形ハ急峻タル森林地帯トナリ道ナキ
 雪原ニ難行ヲ極ム本州北辺ノ地ヲ思ハスヒマラヤ林ノ
 中ニ猛吹雪ヲ突キ道ナキ広漠タル雪原ヲサマヨフ2人ハ心ハ
 ナシナク淋シカクコノ様ナ地形デハ地図ハモウナシノ後
 ニモタヌ磁石ヲタヨリニタビ一定方向ニスキーヲ滑ラスヨリ
 仕ヲナイ幸ナ事ニハ谷地温泉附近ニ達シ時儀全温泉ヨリ
 迎ニ来テ呉レタ人達「ヤホー」声ヲ聞ク時ニ午後4:00時
 約1時間ノ難行デ「アツカ」ヨリRoute findingヲ欲シナカツタ
 事ヲ外我レナカウ感心スル谷地温泉ヨリハ谷間ニ向テスキーヲ
 滑ラン4:30漸クニ汗儀全温泉ニ達ス雪ノ内ニ埋モレ
 タ全ク快適ニ温泉ヲ



2月10日雪 冬日ハ期待=外レテ雪 ハ甲山行ヲアキラメ
 猿倉岳ヘ行ク事=スル午前9.15小屋ヲ発サスグ寒ノ尾根=
 取付ク尾根ヲ暫ク行フ台地=達スゴノ附カリ森林ニ至リ
 樹氷カ美シ 雪ハシク降りシル 尾根ヲ進ム=ツレ 森林
 ハ消ヘ 風ハビュン(吹)ナカヲ スカブラヲ来起シ(ヒク)ス=頂ヘ
 午前11.15頂=達ス 猛吹雪ノ中=晝食ヲ終ヘ 直ニ=猿倉温泉
 ヘ全ク快適ナ滑走ヲ新雪ノ上ヲビュン(飛)バン且ツ轉ビナガラ
 約1時間=テ温泉ヘ歸着ス

森林沿地ヲ猿倉岳ヘ向ケ 猛吹雪ノ中=気味悪
 登攀スル小生 1立テタル樹氷(ヒク)ス



2月11日も吹雪=明かり付タイ 10:00時頃小屋ヲ出て
猿倉岳=アソビ台地、約2時間遊ブ、

ブナ林=スキーヲ滑ラス鈴木君



1200 小屋出テ 歸路=ツツ一昨日来ノ深雪=ナヤ
マサレ 時間ノカル事オヒタニシ 全ク深雪ノラッセル
ニウ=サリシ 午後4.00.葛=ツツ 葛ヨリハ氷ノ高クスベシ
面ヲフシ フットハン 午後4.30 焼山=達ス

ブナ林=テ 深雪=ナヤマサナガラ
歸路ヲリテ 鈴木君



八甲田行ハ天候不良ノ爲 山行寫真トモニ失敗
ニ歸シタハ残念デアツ

昭和16年4月作並 鎌倉山 Rock Climbing

4月25日 東北帝大山岳部 / フルツベト供ニ 仙山線 作並 /
鎌倉山 = Rock Climbing / 一日ヲ費ス

登攀中 / 鈴木先輩 (医学部)



小生



收野君(松高出身電気工学)



收野圭木西君



昭和16年5月 泉ヶ岳登山

彗星/橋ヲ渡リ/大甲へ通フ我々/服ニ朝ヲ付必ズソノ姿ヲ映スル泉ヶ岳
ノハ仙台西北方ニ位スル1200^m級ノ中級山岳デアリ/夫テ我々ハソノ泉ヶ岳ニ何
トモ云ヘヌ憧レヲ感^ズテ^モ朝日ニ映ヘル白雪ノ泉ハ我々ニ希望ヲ与ヘンテ
9日 沈マストル女性的ノ泉ノ姿ハ実験ニ渡リ我々ニ慰メヲ与ヘテ^ルテ
大学ニ通フ我々/彼女ニ対スル憧レハ何時カハソノ山肌ニソニテ山頂ニ触レタ
イ気持デー杯デアリ^タ 北國仙台ニモ初夏ノ訪レヲヒキ^テ感ゼラレル5月ノ
或ル日我々金屬工學科ノムヲ憧レル アルバト電気工學科ノアルバトノ間
ニソレヲ実現セントスル企ガ具ク化サレタ

5月19日午前1.00 - 行ハ大学正門前ニ集合シタ 夜中仙台ノ街ヲボクノ
ト歩ム北仙台ヨリハ道ヲ西北ニ取ル 夜ノ漸ク白マントスル午前4.00 根白石
部落ニ達ス屏風嶽ノ麓ヲ至テ芳平ノ高原地帯ニ出タ時ニハ夜ハ全ク明^クナリタ

芳平高原地帯ヲ行ク一行



芳平ヨリ前方ニ泉ヶ岳ヲ望ム



高橋君



芬平ニテ一行



造林小屋附近，草原ニテ





昨夜ノ夜行軍ノ疲レ
モ出ニ行ハサセネムタ
ナリ来タ



最後 / ガー地帯

・もう一息だ



頂上ニテ

岩田君ナカナカ
尖ガツキマセン



ヤット火ガツイテ晝食ト云フ所



オ腹カハッチャッタネー



頂上ハ末ダ雪が残ルヲ



頂上ノ眺メハ素晴ニイハレニ朝日連峯ヲ望ム

赤外線ニテ



下山ノ途ニツク



ナツカシノ泉岳ヨサヨウナラソシテボクニ行ハソノ
夜遅ク仙台ノ街ニタドリ着イタ サ、ヤカナルビール
ノ宴ガ開カレタ事ハ勿論デアル

昭和16年10月蔵王山行

蔵王ソレハ我々東北帝大ニ学ブ者ニ取ツテハホムクランド
トモ云フベキ山ダ秋ノ訪シヲ待チ田村鈴木岩田ヲサシ
我々ノ母ノ山蔵王ノフコロニ入ツタゾシテ蔵王ハヤサニフ
我々ヲ迎ヘテ呉レタノデアツタ

10月4日土曜日ノ講議が終ルヤ我々一行ハ仙台駅ニカケツテ朝7時30分
発ノ列車ノ人トナツタ

青根ヨリム我々温泉ノ途中ニテ



3

東北帝大蔵王ノ小屋ハヤサシク秋々
ヲ待ツテアルヲサ



先ズストーブニ火ヲ付テ



漸ク夕食ガ出来マシタ



食后ノ一服ト云フ所





ヒュッテノ秋^夜ハ青^人争 = < フケテイテク
蠟燭ノカスカノ光リノモトニ 若人 ツドイテ
山ヲ、学ヲソニテ 将来ヲ語ル ソノ熱ニダル
頬 = ハ ス トー プ / 光リガ カスカニ 射ス
山ヲ 愛スル 若人ノ ミノ 知ル 青^人争 カナル
一時デアル

翌朝涙ク起キ朝餉ノ支度ニ忙シイ



今日一日ノ糧食握リ飯ヲ
作ツテセル岩田君



ヒュッテ / 朝

オ早ヨウ





冬雪原中ノヒコツテヘ
ノ道ニルベノ爲ニ我々
ノ先輩ノ刻メル奇怪
ナル道標



蔵王山頂近シ



山頂ニテ



下山ノ途

辛塔場附近ニテ



昭和17年2月藏王スキー行

金屋工学科学生大衆シテ学校ヲサボリ
雪ノ藏王ニ遊ブ



